

4.3 土壌に係る環境その他の環境

4.3.1 地形及び地質の調査結果

1) 調査方法

地形及び地質に関する既往の文献を整理した。

2) 調査区域

調査区域は図 4.3.1-1 に示すとおりであり、湛水予定区域とその周辺区域とした。

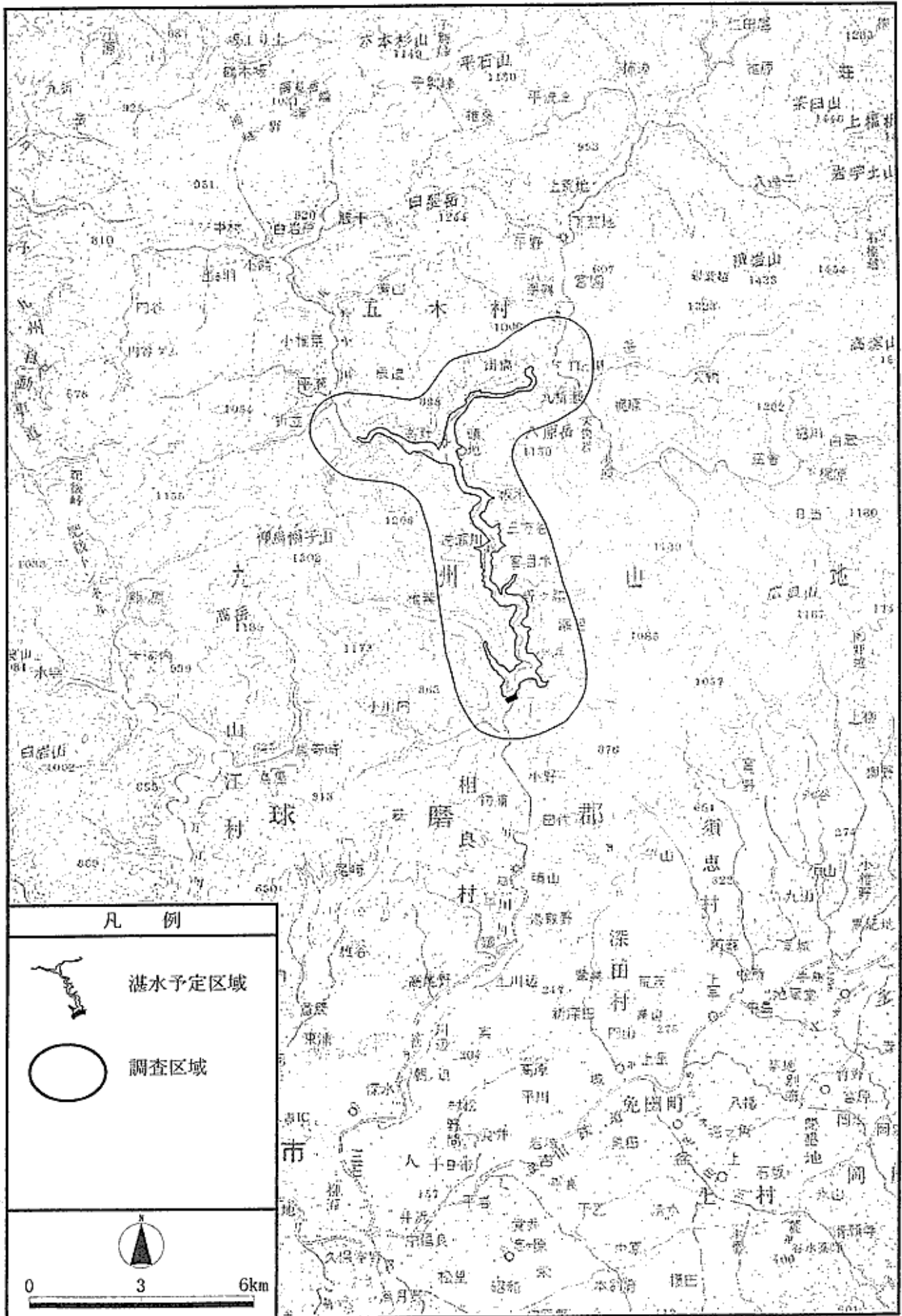


図 4.3.1-1 地形及び地質調査の調査区域(湛水予定区域とその周辺区域)

3) 調査結果

(1) 地形

調査区域の地形の状況は図 4.3.1-2 に示すとおりである。

調査区域はほぼ全域が九州山地に属し、大起伏山地及び中起伏山地を形成する。地形は壮年期の山容で、山地斜面は急傾斜で川辺川がV字峡谷を穿ち、谷底低地に乏しい。しかし、頭地付近に段丘礫層や溶結凝灰岩により形成された台地が分布する。

球磨川や川辺川は山地を横切って流れる先行河川で、下刻された先行谷として急峻な地形をなしている。

なお、以下に示す①～④により重要な地形を選定したところ、表 4.3.1-1 に示すとおり、カルスト地形である天狗岩が該当した。天狗岩は高さ約 100mの露出した石灰岩峰の連なりである。天狗岩の位置を図 4.3.1-3 に示す。

①「文化財保護法(昭和 25 年法律第 214 号)」、「熊本県文化財保護条例(昭和 51 年熊本県条例第 48 号)」により天然記念物に指定されているもの

②「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約(平成 4 年条約第 7 号)」により自然遺産に指定されているもの

③「自然環境保全法(昭和 47 年法律第 85 号)」により地形もしくは地質が特異であるために指定された自然環境保全地域

④「自然環境保全調査 熊本県 すぐれた自然図(環境庁、昭和 51 年)」に記載されているもの

表 4.3.1-1 重要な地形

No.	名 称	選 定 根 拠 ¹⁾			
		①	②	③	④
1	天狗岩				○
計	1	0	0	0	1

1) 重要な種の選定根拠は以下のとおりである。

①「文化財保護法」、「熊本県文化財保護条例」により天然記念物に指定されているもの

特:国指定特別天然記念物 国:国指定天然記念物 県:県指定天然記念物

②「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」により自然遺産に指定されているもの

③「自然環境保全法」により地形もしくは地質が特異であるために指定された自然環境保全地域

④「自然環境保全調査 熊本県 すぐれた自然図」に記載されているもの

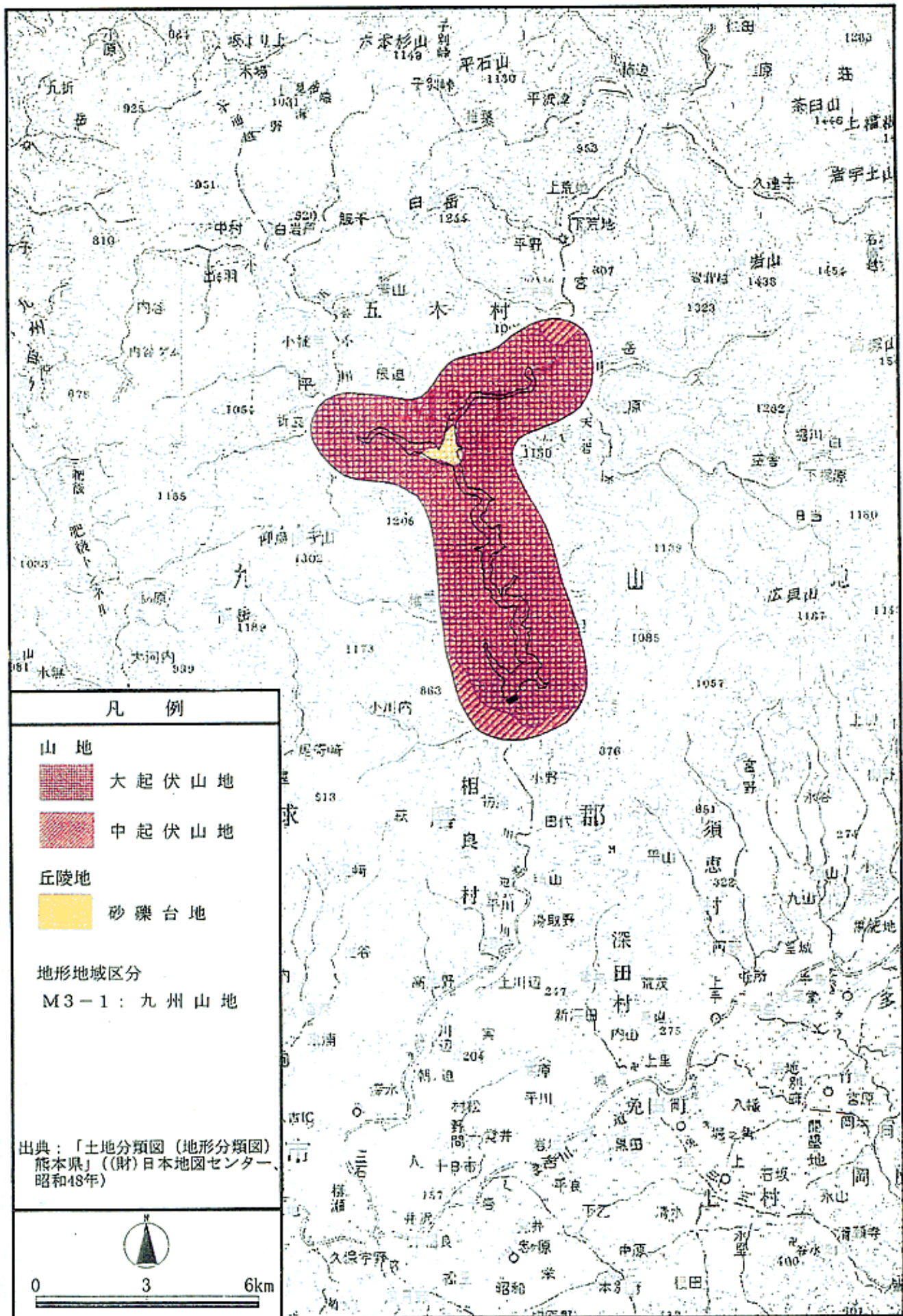


图 4.3.1-2 地形分類図

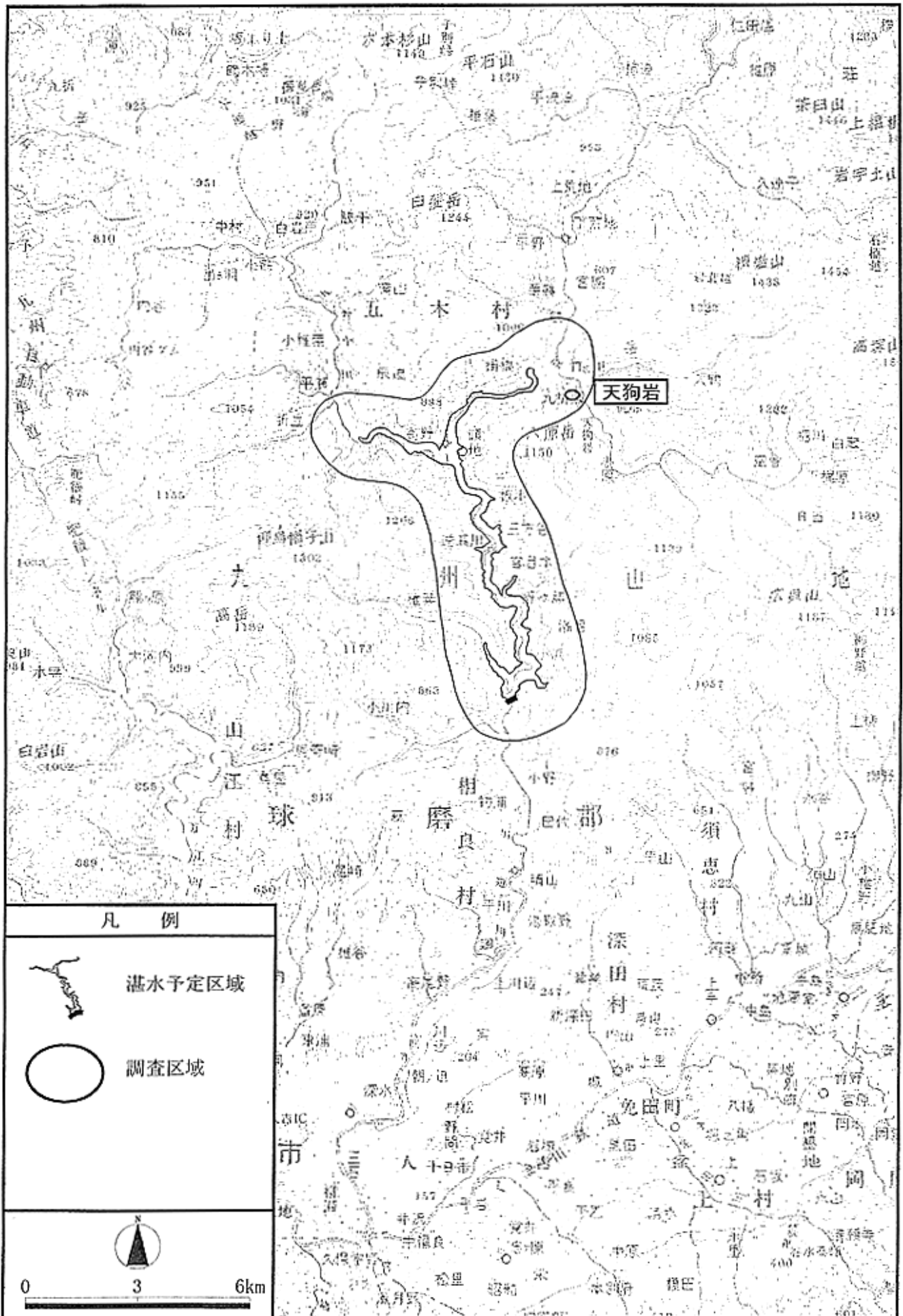


図 4.3.1-3 重要な地形の位置

(2) 地質

調査区域の地質の状況は図 4.3.1-4 に示すとおりである。

調査区域の地質は、北東から南西方向に延びる仏像(大坂間)構造線で大きく二分されている。構造線の北側には秩父帯、南側には四万十帯が分布し、当該地域の基盤となっている。

秩父帯は砂岩・粘板岩・石灰岩・塩基性岩から、四万十帯は砂岩・粘板岩から構成されている。これらは、いずれも中生層に属し、続性作用により固結度は高い。

五木村の頭地では、段丘礫層や溶結凝灰岩が基盤岩を覆い分布する。

なお、以下に示す①～④により重要な地質を選定したところ、これに該当するものはなかった。

①「文化財保護法(昭和 25 年法律第 214 号)」、「熊本県文化財保護条例(昭和 51 年熊本県条例第 48 号)」により天然記念物に指定されているもの

②「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約(平成 4 年条約第 7 号)」により自然遺産に指定されているもの

③「自然環境保全法(昭和 47 年法律第 85 号)」により地形もしくは地質が特異であるために指定された自然環境保全地域

④「自然環境保全調査 熊本県 すぐれた自然図(環境庁、昭和 51 年)」に記載されているもの

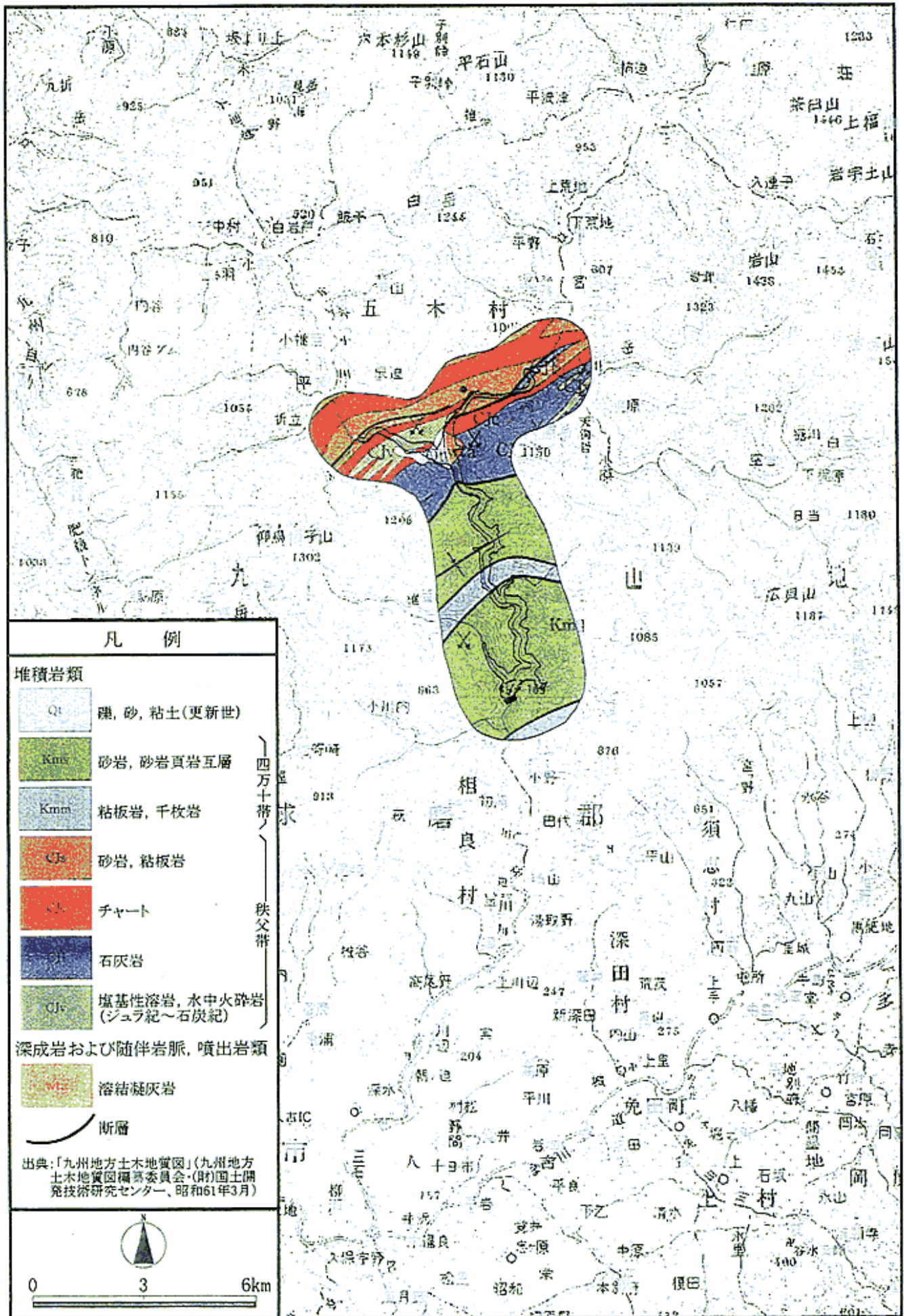


図 4.3.1-4 表層地質図

